おおみや教会通信　５月号 2023.5.7 発行

Newsletter of Omiya Catholic Church
おおみや教会通信

さわやかな風が吹く季節となりました。５月は聖母マリアの月です。
4/10、大宮教会では谷神父様に代わって山口神父様を主任司祭にお迎えしました。
また感染症対策が緩和され、主日のミサは地区ごとの制限なく毎週与ることができるようになりました。
教会活動も少しずつ再開しています。まだまだ油断はできませんが、ここまで来られたことに神に感謝し、共に新しい大宮教会を作って行きましょう。聖母マリアの取り次ぎを願います。

✝✝

自主グループ　おむすびの会

おむすびの会は 2004 年の末に、ウェイン神父様の「大宮公園のホームレスの人達の為に何か出来ませんか？」という呼びかけで、成田さん、大澤さんと私の 3 人でホカロンを配る事から始まりました。

最初は警戒されて受け取って貰えない事もありました。
おむすびとみそ汁を配る様になり、必要な物を聞いて衣類等も届ける様になりました。多い時は２０人以上集まっていました。今は 10 人前後公園が整備されてずいぶん減りました。生活困窮者の人も来られます。ここのおむすびは美味しいから貰いにくるんだよ、と先日嬉しい言葉を貰えました。コロナの時はスーパーで買って配りました。
現在フードバンクからたくさんの食料品を譲って頂ける様になり、配る人が不足し困っています。自転車で来られる方、ご協力いただけないでしょうか？配るのは毎月第 2、3、４金曜日 10 時からで月１回でも大歓迎です。
いつも皆様のご寄付やご協力に助けられながら続けてこられました。感謝です!これからもよろしくお願い致します。

おむすびの会　大野

内容【活動紹介】おむすびの会・コルダの会・青年会
【受洗おめでとうございます】
【信徒委員会】ミサ・除草作業【広報部】部員募集【財務部】部員募集【総務部】受付
【青少年養成部】初聖体【山口神父メッセージ】【洗礼を受けて】【主によばれて（18)】

キリシタン資料保存会（通称・コルダの会）

☆コルダの会創立の経緯

2001 年、古河市在住の川島恂二氏（2016 年帰天・眼科医・郷土史家・切支丹研究家）から親交のあった当教会の信徒に「懇意にしていた患者さんたちから預かったキリシタン遺物を同じ信仰をもった教会の人たちに見てもらいたい」と、寄贈の申し出があった。

遺物は踏み絵やキリシタン鍔、マリア像に似せた地蔵、戦陣旗などキリシタン時代を偲ばせる貴重なものだった。信仰の先人の足跡を垣間見て、現代に生きる我々に何ができるか、模索した末、「これは教区レベルの事業だ」と考え、当時、当教会の担当司祭だった長谷川潤神父（フランシスコ会）に奔走していただいたが、叶わず。同年秋（2001.11.17）、大宮教会内の自主活動の一環として、キリシタン資料保存会を発足した。

☆コルダの会の目的

会の目的は、キリシタン遺物や資料を保管・展示しながら、関東のキリシタン殉教者を顕彰し、これに関する講演、巡礼などを行い、親睦を図りながら、ひいては個々の信仰を育んでいく。

ここ、関東平野が全国から集められた切支丹によって干拓されたという歴史的事実を認識し、切支丹弾圧時代に生きた先人の信仰に思いを馳せる。

「キリシタン禁教令の下で、信徒たちはどのような思いで現実を受け止めて生きていたのであろうか。命を賭けた彼らの信仰を、今こそ、これらの遺物が証しする」。長谷川潤神父（2001 年創立当時大宮教会主任司祭のお言葉）

＜青年会の活動＞

4/8 の復活徹夜祭ミサと 4/9 の復活祭ミサの後で、小学生以下の子どもを対象に、エッグハントを行いました。

これからも青年会の活動にご支援、ご協力をお願いします。

＜受洗おめでとうございます＞

4/8 の復活徹夜祭に 6 人の方が受洗されました。

これからもよろしくお願いします。

大宮教会の皆さん、よろしくお願いいたします

４月１３日に大宮教会へ引っ越ししてきました。それ以来、いろいろな方々が入れ替わり立ち替わり私のところへやって来て、丁寧なご挨拶をしてくださいます。１０年前に１年間、助祭としてご厄介になっていましたので、お顔は何となく覚えている、という方がたくさんいらっしゃいます。でも、スッとお名前が出てくるということは、なかなかありません。そのため、大変失礼な応対を繰り返しているのではないかと思います。この場を借りて、お詫び申し上げます。

新しく赴任する司祭には、当然のように、皆さん、お決まりの質問をなさいます……「好きな食べ物は？」「おいくつ？」「ご出身は？」……そこで今回は、私の基本的個人情報をお伝えしたいと思います。１９６０年１０月５日、午前４時１０分、東京都中野区東中野に生まれました。この瞬間ヨーロッパでは、まだ前日の１０月４日、アシジの聖フランシスコの祝日です。そこで、洗礼名にフランシスコを選びました。今年の誕生日が来たら６３歳です。好きな食べ物はウナギとお寿司。お酒、たばこ、ギャンブル、そしてもちろんオンナ遊びは、全くしません。ミサの御血だけは、おいしくいただいております。

先日、４月３０日の説教でもお話ししたように、不思議な力に導かれてカトリック所沢教会に通い出したのが４１歳。１年間、ザビエル神父様に指導していただき、洗礼を受けたのが４２歳。堅信は４４歳。そして、何を勘違いしたのか、それは未だに分かりませんけど、１９歳の頃から２８年間お世話になっていた受験業界から身を引いて、神学校に入ったのが４７歳の時です。変わった経歴を持つ神学生の中でも、ひときわ目立つ存在でした。

私、中学時代から、英語が一番の苦手科目だったんです。そんな私が、めいっぱい硬くなった脳みそをフル稼働させて、ラテン語、ギリシア語、ヘブライ語の勉強に挑んだ訳です。イエス様とマリア様の支えがなかったら、あるいは指導してくれた先生方の情熱がなかったら、続けられるはずがありません。私の力ではない別の力によって、何とか６年間の勉強に耐えられた感じです。そして、５３歳でようやく司祭叙階を受けました。外国語の他にもう一つ、苦手なものがあります。それは料理です。面倒くさがって作らないのではなくて、作れないんです。定食屋さんとかスーパーのおそうざい、コンビニ弁当、そして奇特な信者さんから時々いただく差し入れ……そういった物で命をつないでいます。この面でも、多くの方々に助けられています。

これから大宮教会では、どんなことが待っているのでしょうか。お互いに欠点を補い合うようにしながら、皆さんと一緒に素晴らしい共同体を作っていきたいと思います。きっとイエス様とマリア様が支えてくださることでしょう。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

カトリック大宮教会　主任司祭　フランシスコ　山口一彦

洗礼を受けて

50 年の人生を思い返すと、神様との出会いは 1 歳の時でした。

私には 3 歳年上の兄がいます。その兄が地元（七里）の小百合幼稚園に入ると、自然に神様との繋がりが生まれました。

神様という存在を知り､信じて､敬うと言う事が､ごく幼いときに自然に身についたと思います。

ただその幼い私の心を裏切る出来事がありました。

兄とワーワー声をあげて騒いでいると、母が「五月蝿い！これだから子供は大嫌いなんだよ！」と言いました。

その一言で、その一瞬で､「私は望まれて生まれてきたのではなかったのか」と目の前が真っ暗になりました。

そのことがきっかけで、神様という存在は私の中から消えます。

ところが 4 歳になり、兄が通っていた小百合幼稚園に入り、再び神様、イエス様、マリア様を身近に感じながら過ごすこととなります。

今思えば、神様は私が信じる心を失っても私をお見捨てになっていない、と言う事だったのだと思います。

その後、もやもやした想いを抱えながら、30 年が経ち、私は身を崩した事がきっかけで、救いを求めて大宮教会を訪れることになります。

そこでの青年達との交流を通して、徐々に信仰の道へと導かれ、大宮教会を初めて訪れてから 20 年が経った今、洗礼のタイミングを授かりました。

幼い時に失った神様を信じる心も、大宮教会につながる事で神様からのメッセージを受け取り、豊かに過ごす、という事が出来るようになりました。

洗礼を受けて何が変わったのかは今はよく分かりませんが、これからも変わらず神様への問いかけと答えを受け取るという事を通して、信仰が深められていくのだと思います。

自分なりに神さまとの関りを通して、よりよい人生を送っていきたいと思います。

N.N

†☆☆†☆☆†☆☆†☆☆†☆☆†☆☆†☆☆†

4 月 8 日、洗礼を受け、キリスト教徒としての人生を歩み始めました。洗礼名はヨセフです。

私は精神疾患を患っており、病名はアルコール依存症と双極性障害です。

結婚していた時期もありますが、離婚し、仕事も失い、突然の人生の失墜をしました。

今では 17 年間断酒を続けることができています、双極性障害も安定した状態を保つことができ、ささやかな就労もして、1 人の生活はできています。

アルコールが辞められた大きな要因はアメリカ生まれの自助グループ、アルコホーリクス・アノニマスのプログラムによるものが大きいです。ミーティングを行い、自分の事を話し、人の話を聞く、自分の信じる神に従って生きる。人間の力、医療の力では、お酒を辞め続けることはできないです。

プログラムには自分の信じる神への祈りと黙想があります、それが自分のものとならずに、気が付いたら教会の門を叩いていました。これからは、自分の神は三位一体の神と信じ穏やかに生きていこうと思っています。

K.S

＜信徒委員会・各部からのお知らせ＞

＜信徒委員会より＞

・平日のミサ　毎週火～金曜日
午前７時より　小聖堂
・土曜日の夕方のミサはありません
・英語ミサ　7/2 より、毎月第１日曜日
午後２時より
・除草作業　5/21（日）
主日のミサ終了後に 30 分程
教会周辺の草取りを行います。
ご協力お願いします
（雨天の場合 5/28）
【作業しやすい服装でおいで下さい】

＜広報部より＞

おおみや教会通信を発行している広報部では、現在各自の事情により実際に活動できる部員が少なく困っています。広報部は文才がある人しかできないと思っている方がいらっしゃいますが、実際は心配ご無用です。

・原稿を依頼する　・通信を印刷する
・印刷した通信を折り、設置（教会１階ロビー、小聖堂）する
・郵送が必要な方向けに封入、切手を貼って投函する(40 部弱)

月に一度これらの作業を手伝ってくださる方がいると助かります。これならできそう、と思う方は受付にお声がけください。

広報部　槻田

＜財務部より＞

財務部でご協力いただける方を募集いたします。大宮教会とさいたま教区を財務面で支える大切な勤めで、以下のチームに分かれて作業しています。

①ミサ献金の集計　②維持費の集計
③経費支払い・伝票作成　④会帳簿作成

作業日は第二、第四日曜日のミサの後です。

①②③は現金を取り扱うので最低２人以上で作業していますが、部員数を増やして交代シフトが組めるように、またできる範囲でパソコンも導入したいと考えています。奮ってのご参加をお待ちしております。

＜総務部より＞

受付当番がいる時間は
5 月第２週から
毎週金曜日 10:30～13:00
毎週日曜日ミサ後 13:00 まで

＜青少年養成部　子ども会より＞

初　聖　体

〇対象　小学４年生以上
〇日程　※日程が変更になっています
・初聖体　’23 年 11 月 19 日(日)
・勉強会　①’23 年 6 月 18 日(日)
②　7 月 23 日(日)
③　9 月 17 日(日)
④　10 月 15 日(日)
ミサ後 12:00~15:00 頃
⑤　11 月 18 日(土)
10:00~12:00
※ミサに必ず与ってください。
※勉強会にはすべて参加してください。
※都合により変更になる場合があります。
〇持ち物　昼食、飲み物、筆記用具

希望される方は、申込書に記入して、受付に提出してください。

問合せ 青少年養成部 斉藤

✝　主に呼ばれて　（18）✝

　後に私の妻となる佳美が日本に戻った翌日に、パースからアルバニーに戻りました。月が替わったのでホームステイ先も変わりました。

　３軒目のホ—ムステイ先は Van-Ross（バン・ロス）さんという家族です。家族構成はお父さん、お母さんと子供達です。子供はやはり 4 人。子供は 4 人という家族が一番多いように思いました。

　今度の家はちょっと田舎の方にありました。アルバニー自体もともと田舎の街なのですが、その中心部から車で 20 分くらい走った田舎にあります。

　この辺りの「車で 20 分」は 20km 近い距離です。舗装道路から分かれ、小高い丘を上がる道を少し行くと、ロッジ風の家がありました。となりの家までは 300m くらい離れていますし、水道は引かれていないので大きなタンクに雨水を貯めて使います。車はもちろん必需品で、大人の人数の台数が必要だと思いました。

　学校にはスクールバスで行きます。郵便配達はありますが、RMB○○○というようにロード・メール・ボックス（Road Mail Box）の頭文字と数字で表しています。それも道路沿いに設置するので、丘を下って郵便が来ているかを確認しないとなりません。

　新しいホームステイ先に落ち着いてから、少し経った頃、JLMM から手紙が来ました。派遣先がまだ決まらないので、語学研修を続けてほしいとのことでした。

　派遣先については、JLMM を創設したシーゲル神父様が新しい派遣先を開拓すべく、太平洋の国々を訪問していました。

　私はキリバスという国に興味がありました。この国は赤道と日付変更線が交わるあたりにあるたくさんの小さな島からなっている国です。走っている車はほぼ 100%日本車ですが、日本人はほとんどいないことくらいしか知りませんでした。日本人にもなじみのない国ですので、行ってみたいと興味をもちましたが、英語ができる人でないと来てもらっても仕事がないと言われたようです。

　希望の派遣先は行けそうにないので、とりあえず語学研修を継続することにしました。

しかしながら、アルバニーではちゃんとした語学学校がないこと、そのためパースに移りたいことを手紙にしたためて送りました。

　日本への郵便はおよそ 1 週間かかります。返信も同様に 1 週間。今のようにメールがない時代は何ともゆったりとしていました。

　オーストラリアの学校は 1 月末か 2 月初めから新年度が始まります。1 月いっぱいはほぼ夏休み（！）です。子供たちも毎日家にいてにぎやかでした。この家の子供は小４と小２の姉妹、年長くらいの肢体不自由のある男の子、3 歳くらいの男の子の 4 人でした。四肢にまひがあり寝たきりの男の子は知的の面でも発達に遅れがありました。

　肢体不自由のある子供が歩けるようになるための訓練の高名な先生が近くの町に来るということで、1 か月ほどその町に訓練を受けにでかけることになりました。近くといっても広大なオーストラリアでは車で 4，5 時間かかる町も「近くの町」ということになってしまいます。日帰りというわけにはいかず、泊りがけで訓練を受けるため、かなりのお金がかかります。

　そのため、教会が援助のためのバザーを企画して、お金を工面してくれるとのことでした。この会場がスーパーマーケットの駐車場と聞いて驚きました。この当時は、スーパーマーケットは土曜日の午後と日曜日はお休みでした。スーパーマーケットがお休みの土曜日の午後にバザーをやるというのでさらにびっくりしました。

　しかし教会の主導で困っている人のためにみんなでお金を工面するという考え方は素晴らしいなと感じました。また、日曜日はみんなが休める状況を作るというのもいいなと感心しましたが、最近ではオーストラリアも土日もスーパーマーケットは営業していますし、平日も以前のように午後 5 時閉店とはいかず、夜の 9 時 10 時まで開いていて、オースト

　ラリアも時代の波に逆らえないのだと感じました。

見沼区　斉藤

🍀おおみや教会通信はカトリック大宮教会のＨＰ（https://catholic-omiya.net）でご覧になれます。
＊ご意見や投稿（本などの感想、特集してほしいことなど）を募集しています。
FAX か郵送で受け付けています
〒330-0803　さいたま市大宮区高鼻町２丁目３５０　FAX 048－641－2724
カトリック大宮教会　広報部宛